4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・今年度よりアンケート数値でのA評価の割合を80％以上から90％以上に変更している。教育活動の成果と課題がより見えやすくなっており、適切である。
・本年度より評価アンケートをデジタル(オンライン)で実施している。保護者の意見が少ないが、現状の保護者ならPC対応できている。ネット利によるアンケートの方が忘れにくくてよいという意見もある。但し、本当の意味で保護者の声が集約出来ているかは、検討課題である。今後もネット利用と紙媒体双方の利点等を整理して、意見収集に努めてほしい。
・ネット利用は、業務改善という観点では非常に有意義である。アンケートの数字だけにとらわれず、教育活動の実践や保護者意見を大事に取組につなげてほしい。
・特に課題だと思うところを、太字にするという整理の仕方もよい。評価につなげやすい。
・アンケートでのC、Dと回答されている保護者の声は気になる。バロメーターにもなる観点なので、その背景要因も含め真摯に受け止め取組にいかしていってほしい。
・アンケートでは、先生がA、保護者がBという観点が多いが、去年よりその差が縮まっている。本校の教育活動についての保護者からの理解を徐々に得ていると考えられ、保護者の理解を深める情報発信密な情報共有への取組を継続してほしい。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価

学校自己評価の8観点についての自己評価結果は概ね適切である。
・ホームページや学校通信「輝き」、小学部通信「のびっこ」、中学部通信「みちしるべ」など、学校からの情報発信にも力を入れて取り組んでおり、保護者や地域、関係機関にも理解を得ている。来年度に向けて、メールシステムの利用など新たな情報発信も計画している点も評価できる。今後も、情報発信に努めてほしい。
・今年度もコロナ禍での1年間ではあったが、感染防止のための対策に努める中で、多くの学校行事や交流が実施できている。今後も保護者・関係機関等と情報共有に努め、次年度以降につなげてほしい。
・成果と課題をより具体的に整理し、今後の工夫や改善に努めてほしい。
・保護者の声は大切である。引き続き情報発信並びに、意見収集に努め連絡連携を密にした取組の推進を期待する。
・多くの観点で教員の努力がみえる。特に、販売体験や買い物学習等、実際の体験をさせようという視点はよい。教員も保護者もそうした活動を願っている表れである。本物の体験は子どもたちにとって大切な自立や社会参加でもある。今後も継続してほしい。

(1)児童生徒理解
・複数の教師で児童生徒理解に努めようとする姿勢は評価できる。その中で意見交換をしっかりと行っていってほしい。さらに、関係機関や保護者との連携を大事に取り組み精度を高めていってほしい。
・年度初めに保護者との対話の時間を十分にとるのは難しい面もあるかもしれないが、そんな中でも時間を調整し、十分な対話を行っていってほしい。

(2)学習活動
・コロナ禍の状況で、ネット社会が急激に進んだ面があるが、好機ととらえて、十分にICTの活用等に取り組んでもらいたい。
・iPadの活用を推進する方向はとても良いと考える。実社会の生活につなげるとともに個々の自立や社会参加に向けていう視点で、学習活動に取り組んでいただきたい。社会は、どんどん進展している。時代に合わせた取組を推進することが肝要である。

(3)道徳・人権教育
・保護者の評価、教員の評価ともにBではあるが、実生活の中で実感ある道徳教育はよいと考える。継続して取り組んでほしい。
・グループやチームでの指導という記述があった。ペア、グループなどで連携しながら、中身を高めていくことが非常に大事である。保護者もその方向を望んでいると考える。子どもたちがやってみようという体験と関連させながら取組を進めてほしい。

(4)交流及び共同学習
・ペア学習を行っている緑が丘東小学校等との取組は、たいへん意味がある。継続していってほしい。
・今後、さらに活動を広げるのに、市役所等への働きかけもよいのではないか。教育センター等から始めていくのもよいと考える。
・三木特別支援学校は昔も熱心に交流行っていた。当時も自然な交流が行われていた。通常校でも、特別支援学級児童と通常学級の児童との交流も自然に行われていた。すべて助けるのではなく、できることは本人ができるまで待つ、できないことは手助けをするという形や意識が大切である。
・コロナ禍で、自由な交流もなかなか行えない日々が続いていたが、お互いに行き来ができるようになった。今年度もよい取組が行われているので、これを継続していってほしい。
・居住地校交流についても、事前の打合せをしっかりと行い、三木特別支援学校の児童生徒の活動がしっかりと行えるとともに、小中学校の児童生徒と、一緒に活動できる内容を双方で工夫していきwinwinの交流がうまれるように、取り組んでいってほしい。特に中学校は、専科など時間変更等が難しい面もあるが、時間割変更せずに、音楽や体育等の教科の時間に交流するなどの工夫した取組を期待する。保護者の負担も配慮しつつ、三木特別支援学校も小中学校もお互いに大切な活動の場であるので、うまく連携をとるようにお願いしたい。
・私たち学校関係者評価委員も、地域での会議等で、三木特別支援学校の取組の良い所を伝えていって、地域での理解も深めていきたい。
・交流は経験を重ねていないと、自然な接し方につながらない。三木市では、これまでから、しっかりと交流を行ってきているので、自然なかかわりが身についているように感じる。継続が大切である。

(5)学校行事
・フェスティバルでの中学部が販売した品物は、素晴らしかった。私も買ったがよかった。よい交流の場となっていた。世の中の役に立つという実感が得られたのではないか。販売活動を通じて、来訪者とのやりとりができていた。日常の活動と個々の将来とがつながっている証である。
・新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらの取組が昨年度よりも工夫され幅が広がったことは素晴らしい。児童生徒の一人一人の良さを十分に発揮できた学習発表会であった。小・中学部ともに、一人一人が、自分の力を精一杯発揮できていた。

(6)家庭・地域との連携　地域における特別支援教育のセンター的な機能の発揮
・昨年度より、保護者評価あがっている。日ごろから学校通信等で情報発信に努めた成果が出ていると考える。今後も継続していってほしい。
・「すぐーる」を活用して、保護者等への情報発信を考えているのは、良い取組だと考える。
・学校での性教育は、これまで児童生徒個人個人への内容であったが、中学部生徒を対象に全体授業ができたのがよかった。今後も継続していってほしい。
・ボランティアの確保については、知ってもらうこと大事だ。ボランティアとして参加したい各種団体も多いと考える。
・大学等とつながれたらよいと考える。定期的なボランティア活動が行われれば、交流としても深まりが期待できると考える。大学生にとっても、有意義な活動になると考える。
・OT等を招いて指導を受ける取組は評価できる。歩き方や体幹で児童生徒の変化が見られたことも大きな成果であると思えるので、今後も継続していってほしい。児童生徒の変容が見られるということは、すばらしい。
・一方で、小児専門のPT、OTは少ない状況であるので、社会全体としての養成が必要であろうと考える。未来を担う大学生も、そうした場に参加できれば、今後につながると考える。
・多くの取組が、児童生徒の毎日の生活につながっていて、評価できる。今後も継続して取り組んでいってほしい。

(7)健康・安全指導
・ヒヤリハット事例をあげて、校内検討委員会等を行い、研修すること大事だ。様々な研修行う上で、専門家の意見はとても重要なので、今後も継続して、研修会の充実に努めてほしい。個人個人実態は違うので、その児童生徒にあった支援を考えること大事である。
・職員の意識向上が大切だ、そのために、シミュレーション研修等にしっかり取り組んでいることは評価できる。今後も継続して取り組んでいってほしい。
・子ども危機意識向上については、積み重ねが大事だ。今後も、避難訓練等で、一人一人の実態に応じて取組を進めていってほしい。
・危機管理としては、警察との連携も大事だ。安全指導員は、元警察関係の方も多いので情報交換に努めるとよいと考える。
・その他関係機関とも連携を深めていってほしい。理解を深めてもらうことが大切だ。意識のずれ等が生じないようにすることも大切だと考える。

(8)施設管理・教育環境整備
・学校施設に対して、定期的にしっかりと点検が行われており、問題点があれば、修理等、しっかりと対応している。コロナ禍での様々な感染防止対策についても、備品等の整備も含めて適切に行われていると考える。今後も、児童生徒の実態に即した、きめ細かな教育環境の整備に努めてほしい。
・保護者、教職員ともに、安全で安心できる教育環境を整えることに努めている。